

研究・調査報告書

報告書番号	担当
231	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>How stable is the motive-alcohol use link? A cross-national validation of the Drinking Motives Questionnaire Revised among adolescents from Switzerland, Canada, and the United States.</p> <p>動機と飲酒の関連は安定しているか？修正飲酒動機質問票の国際評価：スイス、カナダ、米国</p>	
執筆者	
Kuntsche E, Stewart SH, Cooper ML.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs. 2008 May;69(3):388-96	
キーワード	
飲酒、動機、質問票、評価、スイス、カナダ、米国	
要 旨	
<p>目的： 横断的な国際比較により、（１）飲酒の動機の４軸要因における違い；（２）気分の高揚、ストレス解消、社会的な動機、その場への適応という動機の違い（３）これらの動機の、思春期での飲酒、危険な一気飲み、アルコール関連問題との関連の違いを検討する。</p> <p>方法： 確証的因子分析、分散分析、構造方程式モデルを、スイス（5118名、平均15.3歳）、カナダ（2557名；平均15.7歳）、および米国（607名、平均15.7歳）より得たデータに用いた。</p> <p>結果： 修正飲酒動機質問票（DMQ-R）の４軸構造は、３国間で変わらないことが示された。飲酒動機を容認する平均水準の序列は、３国間で同じであったが（つまり、社会的動機で最も高く、次いで気分の高揚、ストレス解消目的、その場への適応の順であった）、飲酒を容認する絶対水準は、カナダで最も高く、次いでスイス、米国の順だった。３カ国すべてで、気分の高揚と、ストレス解消目的は飲酒、特に危険飲酒行動との正の関連がみられ、これに加えてストレス解消目的はアルコールに関連した問題と関与していた。</p> <p>結論： DMQ-Rは大規模・国際的な調査に理想的である。これを用いて危険飲酒行動を減らす方法を、地理的・文化的にことなる状況で示すのに適しているだろう。</p>	